

学校運営協議会議事録

| | |
|--------|--------------------|
| 校名 | 大阪府立富田林支援学校 |
| (准)校長名 | 校長:向山 和子 准校長:山寄 夏生 |

| | |
|---------|--|
| 開催日時 | 令和7年10月28日(火) 9時30分 ~ 11時30分 |
| 開催場所 | 府立富田林支援学校 1階 会議室 |
| 出席者(委員) | 安原 佳子委員(桃山学院大学 社会学部 教授)、小田桐 茂委員(富田林市立東条小学校長)、成澤 佐知子委員(四天王寺太子学園 施設長)、前田 晶子委員(南河内障害者就業・生活支援センター所長)、土本 由紀子委員(本校PTA会長) |
| 出席者(学校) | 向山 和子 校長、山寄 夏生 准校長、出浦 美果 教頭、木曾 幸葉 教頭、間苧谷 眞吾 事務長、池田 修三 首席、下井 智史 首席、築 美緒 首席、油井 優子 指導教諭 |
| 傍聴者 | なし |
| 協議資料 | なし |

| |
|--|
| 議題等(次第順) |
| 1 開会あいさつ 2 授業見学 3 協議 (1) 令和7年度学校経営計画の進捗状況について (2) 令和7年度学校教育自己診断について (3) 支援学校におけるSSWの必要性について 4 その他 |
| 協議内容等・承認事項等(意見の概要) |
| ◆ 授業見学 高等部1年(職業家庭 陶芸)、中学部3年(グループ学習)、小学部3年(朝の会)の授業を見学いただいた。 |
| ◆ 意見交換・協議の概要 (1) 令和7年度学校経営計画の進捗状況について 【個に応じた教育活動と専門性の向上 1人1台端末の活用について】 事務局) ・児童生徒の1人1台端末の活用状況や、有料アプリのロイロノート活用の状況や研修状況について紹介した。 ・ロイロノートは教材の共有がスムーズであり、生徒も操作が一定で使いやすいので成果が大きい。 【地域と連携した安全、安心で魅力ある学校づくり 防災学習について】 事務局) ・子どもの主体性を重視した防災学習について説明。PTAとの連携や、児童生徒が協働する取り組みは意義があった。 委員) ・PTAの行事委員が行った防災シアターは、保護者も達成感を得られる機会となった。 ・「子ども主体」の防災教育について、「主体性」をどうとらえるかが大事。計画段階から子どもたちの声を聞いて組み立てていくことが大切である。 事務局) ・「主体性」については課題と考え、アンケート等で子どもたちの意見を聞く準備を進めている。子どもたち自身の発言を具現化し、取り組みに子どもたちの声を反映させていきたい。 (2) 学校教育自己診断について 事務局) ・保護者からのアンケートの回収率を上げることが課題。今年度はGoogleフォームと紙媒体を併用する予定。 ・ICTに関する設問については文言を工夫し、変更する予定。 (3) 支援学校におけるSSWの必要性について 事務局) ・本校における家庭・地域・関係機関との連携が不可欠であるいくつかの事例を紹介し、SSWに求める支援について示した。 ・バス登校で困難さのある子どもの事例について詳しく紹介。関係機関と連携し、目標の細分化やケース会議、記録、スモールステップなどの対応を継続中であることを説明。 ・SSWと伴走しながら、即時性のある支援体制や情報の整理、背景要因の分析、地域資源の活用専門機関との連携、 |

卒業後の進路支援などが必要である。

委員)

- ・情報整理・要因分析の難しさがある。ケース会議が状況報告で終わりがちで、問題の本質分析が難しい。心理士や専門家の知見も活用しつつ、多角的な視点で捉えることが大切である。
- ・虐待経験を持つ子どもの情報共有が難しい。児童相談所など関係機関を交えた連携が重要である。
- ・支援学校卒業後新しい環境への移行時に、過去の成功体験やきっかけを引き継ぐことが重要である。記録などを残し、引き継いでいくことが大切である。
- ・小学校でも各関係機関と連携したいが、ケース会議を開くのも教員だけでは限界があり難しい。支援学校にもSSWが配置され、専門家のアセスメントやアプローチがあると良い。
- ・大阪府はSSWの相談会を年6回実施している。現在は主に高等学校、高等支援学校等での活用であり、突発的な案件に関して出向くことができるが、支援学校には出向くことはできない現状がある。その場での助言しかできず、実際に入っていくことができない。
- ・対応の即時性を期待するのであれば週に2回程度学校にSSWが必要であるが難しい。SSWのニーズがあることについて継続的に声を上げていくことが必要。
- ・子どもを中心とした環境調整や家庭支援やコーディネートを行うことがSSWの役割である。多角的な視点を持って一緒に解決することが大切。
- ・いじめ等も背景に、家庭に課題を抱えている場合があるが即時対応が必要であり、SSWの活用は難しい。
- ・教員や事業所の職員などが一緒に講話を聞くなどして共通認識を持つことで、連携が進むのではないかな。

事務局)

- ・バス乗車に関する事例に関しては、関係機関と連携し、現在の状況に至るまでとても大変だった。教員が通常の教育活動を行いながら調整したり、記録を残したりするには限界があり、そこにSSWの存在が必要である。

委員)

- ・教員とバス添乗員との情報共有の難しさもある。
- ・朝、「バスに乗る、乗らない」と葛藤している子どもがいる。視覚支援を提案し、「バスで行く」「保護者で行く」という選択肢にしたら前向きに登校できた例がある。本人の意思を聞くことが大切である。
- ・各機関でそれぞれの制度上の枠やルールがあり、それをどうまたいていくかが難しい。話し合いの中で臨機応変に対応してもらえるとありがたい。

事務局)

- ・「枠組み」を超えていくことには難しさがある。また、SSWについて予算の壁があったり、教員不足の解消の問題や教職員の育成についての課題があったりするが、今回の様々なご意見をもとに今後の学校の在り方について考えていきたい。

次回の会議日程

| | |
|----|--------------------------|
| 日時 | 令和8年2月26日(木曜日)9:30~11:30 |
| 会場 | 府立富田林支援学校 会議室 |